

closely resembles *Cladonia Krempelhuberi* Vain. var. *sublepidota* Asahina, from which it is distinguished by the lack of real cups. As it forms usually a mixed colony with the latter, one must be careful to exclude its contamination. Also this new species resembles *Cladonia gracilis* var. *chordalis*, especially in its thinner form, but differs from the latter by the subequally dichotomous branching.

昨年の夏富樺誠君が四国で採集を行ひ其内阿波那賀郡沢谷村岩倉の採集品の一団 *Cladonia Krempelhuberi* var. *sublepidota* Asahina の中に見慣れない地衣が混在して居たので之を注意して分離して検査すると従来記載されて居ないものと推定されたので本年再び富樺君を促して上記標本の原産地に行つて貰い若干の標本を追加することができ従て其地衣の変化の範囲も明になつたのでその記載を発表することにした。本種は外形が *Cl. Krempelhuberi* v. *sublepidota* に似て居るのみならず生活条件も酷似して居る為か密に混生し両者を分離するには細心の注意が必要である。本種の最も顕著な特徴は規則正しい同等二叉分枝を行うことで *Cl. Krempelhuberi* の仮軸性分枝又は盃の中央から発芽するのと根本的に異なる。又本種の有子器の枝は其頂で少數の極めて短い指状(digitate) に分裂した枝の端に径 1 mm を越えざる褐赤色の子器を頂いて居る。従つて所謂盃は全くない。

○高等植物分布資料(3) Material for the distribution of vascular plants in Japan (3)

○ハナナズナ *Berteroella Maximowiczii* O. E. Schulz 1955年6月、岡山県遙照山(標高 405 m)の中腹西面向陽地でハタザオに似た植物を採集した。これの草丈は 30~40 cm で、茎の上部は殆んどの個体が分岐している。葉は笠形で長さ約 2 cm、葉巾約 0.7 cm で互生し、茎にも葉にも微毛があり、これをルーペで 25 倍に拡大すると見事な星状になつてゐる。この時期には花は未だ開かず、蕾の状態であつた。7 月中旬に再び現地で観察したところ、花色は淡紫色——殆んど白花と言つてよい程度——で、4 花弁、雄蕊、雌蕊ともに十字花植物の特徴を具備していた。種名を確かめるために、吉野善介氏を介して科学博物館の大井博士に腊葉標本を送ったところ、ハナナズナである事が明確になつた。ハナナズナは広島県(安芸、備後)、九州(対馬)に稀産するが、岡山県にも生育しているのである(金光学園高校 赤沢郁滿)

○コキクモ *Limnophila indica* (L.) Druce 1955年10月8日群馬県館林市近藤沼においてコキクモを採集し、1957年10月6日に再び調査を行い確認した。生育地は沼の中の田の面及び水路に面した田の端で所によりキクモと全く混生して同一の叢になつてゐる事がある。本種はキクモ(*Limnophila sessiliflora* Blume)に類似するが、茎は無毛、萼は裂片の先端に 0-3 本の微毛を生ずる他は無毛、花は小形で全長 8.0-8.5 mm、有柄、若い果に宿存する萼の裂片は 3 角形、種子が橢円形である点で区別しうる。御指導いただいた大井次三郎博士に感謝する。(東京都文京区 [REDACTED] 田中 肇)